

# 2009年度 冬季研修会 報告

1月30日、たかつガーデンで冬季研修会を行いました。午前・午後7つの講座に、のべ309名の参加がありました。どの講座も参加された方みんな熱心に受講され、これからの実践に役立てていこうとしておられました。講師の皆様、各支部から来られた役員の皆様、本当に有難うございました。

各講座の内容報告をご覧ください。また、アンケートにご協力いただき有難うございました。これからの会の活動に活かしていきます。

定員を超過した講座があり何人もの方にお断りをさせていただきました。申しわけありませんでした。これからの研修の機会には、ぜひご参加ください。

## 支援のためのアセスメント

アセスメント（子ども理解）で注意すべきことは、「子どもの指導に必要な情報のみ集める」、「学級グループダイナミクスの中での把握を」、「うまくいくコツは記録をとること」など、さまざまな角度から子どもをみていくことの大切さを教えていただきました。

検査の基本的な考え方や心理アセスメントツール（DN-CAS）についての概要について詳しい解説をしていただきました。中でも、プランニング（Planning）の重要性について強調されていました。

プランニング（Planning）とは、問題の解決の方法を決定し、選択し、適用し、評価する心的過程で、提示された情報に対して効果的な解決方法を決定したり、選択したり決定したりする認知プロセスのこと



です。

支援事例についても、小学生と中学生の事例から結果の解釈から指導そして、指導の経過までの流れを具体的に示していただきました。

最後に、心理アセスメントツール（WISC-IV）の概要について、WISC-IIIとの相違などの解説がありました。

## バーチャルAD/H D

子どもを理解しようと思えば、子どもの目線で子どもの立場で考えることが大切だとよく言われます。この分科会では、ヤンセンファーマ株式会社の熊野健司氏より『バーチャルAD/H D』の紹介とその開発意図についての報告をしていただきました。

『バーチャルAD/H D』は注意欠陥／多動性障がいのある子どもたちにみられる症状をフェイスマウントディスプレイと呼ばれる附属のゴーグルと、自然界





にごく近いバイノーラル音源で疑似体験する装置です。講演では参加者全員にDVDで、その様子を見せていただきました。『理科室での授業のシーン』では、「黒板を見なさい」という指示があっても、太陽系モデルなどの周囲においてあるものに気が散ってしまい集中できません。このほか『お母さんとのやりとり』『自宅から野球の練習場まで道

で（「踏切」、「宣伝カー」、「猫」、「粗大ゴミとマンガ」）』などのシーンがありました。

講演の後、抽選の結果、選ばれた16人の方に「見たいものが見られないもどかしさ」を実際に体験していただきました。空席がないほどたくさんの方が参加された分科会でしたが、全員が体験できなかったのがとても残念でした。

## アクセシビリティ、パワーポイントの活用

本分科会では、2人に1台程度のコンピュータを用意していただくことができ、それを操作しながら、アクセシビリティ機能を教えていただきました。

アクセシビリティ機能とは、障碍（しょうがい）のある方や高齢者などが、より簡単・手軽にPCを使いやすくすることを目指すものです。

アクセシビリティについて、あまり知らない方も多かったと思われませんが、持ち込みのパンフレットもあり、また、具体的な操作をとおして、日々の子どもたちの学習への活用のしかたを教えていただけて、とてもよかったという感想が多く寄せられました。

パワーポイントの活用では、文字の書き順を動的にアニメーション表示するスライドや足し算のスライド、VOCA（音声）スライド、タイマーをアニメーション表示するスライドなどの紹介がありました。肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい、発達障がい等々、それぞれの困り感に応じて、さまざまな活用が可能であることを実感できました。

参加者それぞれが、自分の受け持つ子どもたちのことを考えながら、講座に集中されていて、講座終了後も、講師の方に具体的にアドバイスをいただく姿も見られるほどでした。



## 自立活動の指導の実際

支援学校・支援学級では、社会の変化・児童生徒の重度・重複、多様化などの様々な対応が迫られています。2009年度は、支援学校の学習指導要領改訂において自立活動の内容も見直され、子ども一人ひとりのニーズに応じた適切な支援の充実が期待されています。

従来からの自立活動は、「個別指導計画」に基づき様々な指導が行われてきました。指導要領の各領域、区分に応じて目標を明確にした指導は大切ですが、それを柔軟に捕らえつつ実践につなげていくことも大切であるといわれています。

自立活動の実践の紹介では、「ICFの視点」「自立活動の視点」「すぐれた教材」などさまざまな角度



から長期的な見直し（生活）といま（現在）を大切にするアプローチを学ぶことができました。

「動作法」の実際と指導技術では、「やりとり課題（共有動作課題）」、「動作コントロール課題」、「リラクゼーション課題」、「タテ系動作（姿勢・動きなど）課題」の資料と説明があり、2人組になっての実技演習がありました。

## ICFの基礎・基本とその活用

講師として、山形県、和歌山県、三重県という遠方から3人の先生方が駆けつけてくださいました。講義は3部形式で、1、ICFの理念や基礎・基本について。2、ICFの活用。3、まとめ。の講演でとても内容の濃い研修時間でした。

1部の基礎・基本では、ICFという名称は聞いたことはあるが内容までは・・・という受講者にとって本当に丁寧に、分かりやすく、しかし、大切なポイントはしみ通るように、篤く伝えていただきました。

ICFはすべての人に関する分類である。人が人として生きること。生きて生活して人生を歩み、どんな人生を作っていきたいのか。など、人としての根幹にかかわる人間観として、子どもたちに伝えていく内容であることや、多面的に総合的に子どもの生活を捉えられるものであることを、伝えていただ

きました。

2部は、どのように子どもを理解し、どのように支援につなげるか、の内容で、3～4名で、実際に事例をあげ、他の人との交わりを含めた、社会的視点（活動・参加）からのアプローチに重点を置いた関連図制作に取り組みました。実際に制作すると、そう簡単な作業ではなく、チームとしてのコーディネイト力の質が要求されることや、事例





の実態、その子の願い、支援のあり方など、個別の教育支援教育につながっていくことを実感しました。

3部は、ICFおよびICF-CYの活用についてでした。ICFを活用することで、子どもたちの可能性を見いだす力や教師自身の生涯観・人生観・差別意識を問い直すことを求められていくことや、教員として、子どもの人格形成・人生形成にかかわっているという意識を持つことも忘れてはならない、などのことばが印象的でした。

ICFのことを深く知らせたいと願う講師の方々と、この機会にきちんと学びたいという受講者先生方の熱意で予定時間をオーバーしてもなお、話は尽きない熱気溢れる分科会でした。

## 子どもの性を考える

大阪手をつなぐ育成会の相談支援員の中村昭代さん。大阪自閉症協会の井上ひとみさんと大橋一予さんの3人の方に講師として来て頂きました。井上さんは支援学校高等部2年生の女の子の、大橋さんは施設に入所している41歳の男性のお母さんです。

中村さんからは、将来を見据えた「生きる力」を身につけることが大切であり、今こそしなければならないことをしないと後では遅い。「食べる・出す・寝る」が基本3原則であり、基本的な生活習慣の確立を目指さなければならないということに続いて、体の清潔・余暇の過ごし方（親と子では余暇のとらえ方が違う）、そして思春期の性行動を理解しなければならないということをお話されました。

井上さんは、お子さんが小学部の時から、生理についての準備を始めると共に、実際に始まった時にも、生理用品の取り外しは出来るが、汚れていることをどう理解させるかについて、どのようにされたのかについても、本人に汚れていることを納得させたということをお話されました。そして自分の汚したものを人にしてもらうのは恥ずかしいことだから、自分で洗うということをお話されました。思春期は、障がいのある子どもにも、健常児と同じように来る、その時はイライラして、本人が一番つらい、そのつらさを言えない本人の思いをくみ取ってあげないといけない、と続けられました。

学校へ依頼する時には、ただ「何とかして下さい」ではなく、具体的に言うことが大切と言われました。先生と保護者の関係が良くなると学校へ楽しく行く。学校から帰ってきた時に笑顔で迎えること。そして、自閉の子どもは、気持ちは読み取れないが、感情の揺らぎには敏感です、と話されました。



大橋さんは、年齢的に親の限界が来るので、生活の場を考えないといけない。20年後30年後を見据えて、親亡き後はどうするのかについて考える必要がある。「基本的な生活習慣」が出来れば生活が出来る。そして生活習慣は小学校のうちに確立する。小学校では許されても成人になると許されないことがある。生活的な能力をどこまでつけられるかが生活習慣の確立とつながる、と話されました。

変化があった時に、大きな声を出したり怒ったりせずに、あわてずに普通の言葉で接する事が大切だと言うことを話されました。

思春期を、性だけの問題として取り組まないで、一人ひとりの個性を理解し、障がいレベルを把握することが大切だという事を話されました。思春期をどう受けとめるかということについても、自分の身体の成長の変化に対する知識の乏しさがあるということに触れられました。

講師の方々のお話の後、参加者から出された質問へのお答えの一部を紹介します。

- ・ 性器いじり…課題があっていないのではないかな。退屈しているのではないかな。
- ・ 女の人に近寄っていき主に髪の毛の匂いを嗅ぐ…ダメなものは駄目と言うとともに、それだけではなく他に好きなことを見つけさせる。
- ・ 女子高生に声をかけて反応を楽しむようなことをやり始めた…悪いことは悪い。障がいがあるからと言って許されることはない。

参加者から「具体的な話が聞けて明日からの実践にとっても参考になります」との声が聞かれました。

## 自閉症教育プロジェクト 青年期・成人期を見通して考える現在の課題

ボトムアップとトップダウンの両方の視点からのアプローチで、一人一人に応じた具体的な目標や課題が設定される。日常生活や学校生活では、彼らの自分基準の視点からの振る舞いや判断によって、彼ら自身が困難な状態にある場合が少なくない。ソーシャルスキルからライフスキルへ目標を考える視点を広げていくことで、日常生活での彼らの困り感に寄り添い、その改善に向けた具体的な取り組みが可能となってくる。「社会性（ソーシャルスキル）」から「社会への融合性（ライフスキル）」という視点での取り組みが青年期や成人期に向けた目標設定では大切となってくる。「ライフスキルトレーニング（LST）」は、社会システムの理解、対人関係調整、生活管理、自己理解、余暇利用のそれぞれの領域で考察され、実践される。

このような支援は、障害の理解をはじめ日常生活のようす、現在のスキルの状態、彼らの理解の仕方などについての評価に基づくことで、具体的な取り組みが可能となってくることも忘れてはならない。



## アンケートより

## A. 講座の内容について

### 支援のためのアセスメント

- ・検査の結果を指導にいかすことの重要性をあらためて感じました。職場でも伝えたいと思います。
- ・新しい検査のことなので興味深く聞くことができた。その検査をどう読み取れるかが大事だと思います。具体的な支援方法をたくさん知りたいです。
- ・具体的にお話していただき興味をもてました。自分もアセスメントの検査ができるように研修していきたいと思いました。
- ・DN-CAS の検査概要がおぼろげながらわかりました。ただ、内容が多い中、短時間での講義で理解までにはいたらなく残念でした。もう少しゆっくりとじっくり先生の講義を聞かせてほしいと思いました。ありがとうございました。
- ・事例を出し、発達診断に基づいて指導の経過や効果がわかって良かったと思います。もっと指導方法が知りたいなと思いました。近大クロマグロの話で頭の切りかえができ、よかったです。
- ・児童にどう支援していったらいいのか、いつも迷っているのですが、今回の研修でいろいろとヒントをいただくことができました。それぞれの子の強みを大切に生かして今後の指導に取り組んでいきたいと思います。ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。私は、WISC などの検査に関する知識は、全くなかったのですが、とてもわかりやすく、解説・説明していただいたので、とても助かりました。また、講師の先生のお話もおもしろく、集中して楽しく受講することができました。
- ・何のためにアセスメントをするのかが、ストンと腹に落ちました。子どもを見る視点を多様にもつことで、その子の指導にいかにかかすのかさらに、子と子のつながりの中で把握していくことの大切さに共感しました。
- ・まだ支援学級を持って1年目です。研修の中で子どもに障がい名をつけるのではなく、その子の特性をしっかりと見るということの大切さをとても感じました。
- ・楽しい検査紹介で、日々のかかわりの大事さをあらためて感じました。
- ・とてもわかりやすく、聴講者の立場から聞き易くなる工夫をしていただきました。
- ・とても勉強になりました。DN-CAS を使えるようになりたいと思いましたし、子どもが、こういった思考で問題をといているのかを確認することの大切さを学びました。
- ・他の検査についてもくわしく知りたい。
- ・新しい検査法を紹介していただきありがとうございました。検査の意味がよくわかりました。ぜひ、手にして自分でも検査したいです。また学校の中で子どもをどう見て検査をどう生かしていくか、より鮮明にお言葉をいただき、今後の方向性を示していただきました。
- ・先生のお話はとてもわかりやすかったです。新しい検査法を教えてくださいありがとうございました。また、DN-CAS の検査器具をお借りして教えてくださいたいと思います。WISC-IVの検査の解釈法もまた教えてください。
- ・DN-CAS について初めて聞きました。まだ DN-CAS は使えないと思いますが、子どもの実態と指導方法は具体ですぐに実践できそうです。いつも明日への意欲がわく講演をありがとうございます。

## バーチャルAD/HD

- ・話を聞けば聞くほど、装置を体験したくなりました。講義の間も順番に体験できたらよかったです。
- ・バーチャルAD/HDを参加者全員が参加できるようにしていただきたい。この体験の後の講演が有効であると思う。
- ・AD/HDの特性はある程度わかっているので、講演の中で、順番に体験させてほしかった。機械が高価であることもわかりますが、宣伝に終わっているのかと…この後体験に当たらなかつたら、がっかりだなあと…体験した後でディスカッションできるようなそんな講座があればよいなあと思いました。
- ・講演時間よりも体験時間を多くとっていただけるとありがたかったと思います。次回はよろしくお願ひします。

(上記と同趣旨の御回答が多くありました)

- ・出席者が多く、関心の高さを改めて感じました。体験希望者が多かったので、次回またお願いします。また、教育現場からのこんな指導の手立ても…という提案も併せてある分科会だったらいいのにと欲張りなことも考えました。
- ・今回の説明の後、時間が少し余裕があったと思います。少しでも多くの人に…というのであれば時間を体験に当ててもらえればよかったと残念に思います。あるいは、AD/HDのある子への支援と組んだ研修にさせていただくと、もっと有意義なものだったのではないのでしょうか。後半、親御さんのお話はとても参考になりました。このような体験研修も大変でしょうが、続けてどんどん理解を深めていただければと思います。
- ・〈講師の方に伝えたいこと、質問〉DVDの中身は音声・画像で表現されていますが、登場人物の吹き出し(台詞)がありません。主人公の子どもがグレー(シルエット)だったのは、とてもよかったと思います。子どもや登場人物の台詞(吹き出し)がなくとも、子どもたちは音声や話し声で会話の内容が読み取れるのでしょうか。子どもたちといっしょに見るのは台詞がほしいと思いました。  
〈その他〉連絡帳の話はよくわかりました。医療関係に行くこと自体が特性を受け入れることなしに実現しない。いろんな立場にある人が話を聞いて、気づきを深めることができるようにいろんな人に話をしてほしいと思いました。
- ・全員が体験できなかったのが期待はずれでした。機械のお話を聞きに来たわけではないので、少しこちらの思いとは違いました。保護者の方のお話は興味深かったです。
- ・体験させていただき本当によかったです。周りの刺激が入りなかなか集中しなければいけない事に注意が向かないとわかっていましたが、自分の意志で(黒板を見よう)とは思っても目がその黒板にたどりつかない事に驚きました。自分の意志で刺激のある方を見つめ、そこへ行動がいくものと思っていたからです。
- ・DVDの配布は意義があると思います。AD/HDの方の理解をたくさんの方にさせていただくためには、学校という場の活用はすごく効果的だと思います。社会で生きづらさを感じずにAD/HDの方が生き生きとすごせるためにはこの社会を作る方々が、AD/HDの理解をしていただく必要があります。将来の社会を作るのは今、学校に来ているたくさん子どもたちです。教師に是非バーチャルAD/HDを体験してもらい、そこから通常学級の子どもたちに広げる学校であってほしいと思います。
- ・AD/HDの方の行く末、人の理解、その上のサポート支援につながったらよいなあと考えました。実用化に向けてどんどん改良して行ってほしい。
- ・AD/HDの子どもたちが、将来社会で生きていく時に行きづらさを感じずに生き生きと過ごせるためには、将来の社会を作る今の児童生徒の理解が大切です。学校教師が、このバーチャルAD/HDでしっかりと理解し、良い対応の仕方をクラスの児童生徒に教えていく啓蒙が大切だと思います。
- ・AD/HDの子どもだけではなく、LDや広汎性発達障がいの方の理解をしていける機器の開発があるといいですね。

- ・AD/HD の子ども自身が、自分自身を分かる、理解するために、「あなたの困難さはあなたの特性。その特性をわかった上で行動すればよいのです」というメッセージが伝わることに使えたらと思います。
- ・なかなかまわりの人々に理解されにくいAD/HDの児童の理解につながるものを開発していただき、ありがたいなあと思う。「すべてが理解できなくても理解するきっかけになれば…」と言われたが、そのとおりだと思う。
- ・日々障がいのある子どもたちと接しながら、この子どもたちを他の子供たちに、より理解してほしいなあ、どうすれば分かってもらえるかなあ、と悩んでいます。特にAD/HDは、関わる人々(家族)につらい思いをさせてしまうことが多いと思います。そんな時に、この装置(DVDなど)があれば、児童に接する態度も変わると思います。より多くの方に活用できるよう考えてほしいです。

### アクセシビリティ・パワーポイント

- ・アクセシビリティの機能が、サポート以外にも、プレゼン等にも活用できることを知れて、よかったです。
- ・日々成長する児童に合わせて教材、教具を工夫していくため、有効なパソコンソフトの活用の仕方が紹介されて、役立った。
- ・今までパソコンを使っていて便利な機能も使わないままでした。「目からうろこ」です。
- ・今欲しい情報が得られ、とてもよかったです。LD やダウン症の子どもなど、学習に支援の必要な教材がいっぱい紹介され、すぐ使えそうなのがうれしい。
- ・知っていそうなことでも、聞くと新たな発見があり、とてもよい機会でした。
- ・パワーポイントの活用を教えていただき、子どもたちとの学習に、さっそく活かしていけるよう、やってみたいと思いました。
- ・「特別支援教育でのパワーポイントの活用」というのが、とても使えそうな気がしています。これについて、もう少し詳しく知りたかったです。
- ・自閉症の子どもにもVOCAを使いたいが、高くて学校ではなかなか買ってもらえなかったもので、今後使ってみたい。自分で作れるかが課題ですが・・・。
- ・今、特別支援教育現場では、ICT 突然導入のイメージ、インターフェイスのみフレンドリーする爆発的に活用と予感の段階です。このような(Windows7 のチョットとした活用方法)チョットとした知識を教えられる環境の充実が、今こそ必要な段階です。

### 自立活動の指導の実際

- ・手のそえ方、(指先に力を入れないこと)など、今まで気づかなかったこと、知らなかったことが聞け、たいへん勉強になりました。
- ・自立活動は、とても大事な活動であると思いますが、あまり研修する機会がなく、今日、もててよかったです。とても参考になり、学校にいる子ども達を思い浮かべながら、実際にやらせてもらいました。もっと学習して取り入れたいと思いました。
- ・必要以上に緊張する子のかたの力を抜くべくコミュニケーションをとり、リラクゼーションにつながるようにしていく必要を感じました。
- ・動作法で、心でコミュニケーションをするということを知ることができました。
- ・肢体不自由の子ども以外にも動作法が有効なことがわかりました。
- ・今までに受けたことのない研修内容でした。とてもおどろきました。すぐに活用してみたいです。リラクゼーション、ビジネスマナー等、また研修してみたいです。
- ・今までの子どもをみる観点が変わりました。リラクゼーションと動作法を使い、コミュニケーションをとることでクラスの中できんちょうを少しでもやわらげてあげたいという思いです。



- ・動作法の図を見ているだけだと、脳性マヒの子のためだろうなと思っていましたが、実際にやっているとコミュニケーションなんだということがよくわかりました。
- ・動作法の具体的な指導がわかり易かったです。ありがとうございました。
- ・主に知的障がいの支援学校において自立活動の「時間における指導」が設定されているか？その工夫は？ということも知りたいです。
- ・もっともっと子どもの気持ちに合わせていかなければと思いました。
- ・手のひらを合わせて押す、引くの動作を相手の人として、相手の人の動き（気持ち）を感じながら、こちらが行動すること（気持ちを伝える）の大切さを感じました。
- ・非常にわかりやすくよかったです。支援を必要とする子どもだけでなく、その子を取りまく子どもたちとのかかわり方や、まわりの子どもの関わり方もアイデアがわいてくる話でした。

### ICFの基礎・基本とその活用

- ・ICFって何のことか、全く知りませんでした。恥ずかしながら少し知りたいと思い参加しましたが、少しだけ分かった気がします。家に帰って自分自身ICF関連図を作ってみて、自分の生活改善ができればと思いました。一人一人の深いICF関連図をチームで考えれば意志統一という点だけでも意義があるのかなあと思います。それ以上に子どもの成長に意味があると思います。昼食後の研修にもかかわらず、眠くなりませんでした。
- ・関連図ちょっとかけそうかなあと思いました。でも、うまくいった関連図があって、それを参考に書けるといいなと思いました。
- ・とてもわかりやすいお話でした。DN-CASをやってみたいと思いました。
- ・ICFの利用は個別の教育支援計画にも非常に役立つと思いました。  
ICFの講義は以前聴いたことがありましたが、活用方法がわからなかったもので、本講座は本当に良かったです。企業で学んだ「QCの7つの道具」とよく似た発想（技）だと思いました。
- ・初めてICFを知り、子どもの理解の1つの手だてとして、こういう方法もあるんだと思いました。ただ、分類表もなかなか難しいと実感しました。研修パック、是非作ってください。講座としては3部構成で初めての者にも聞きやすく、参加して良かったと思います。
- ・何度聞いても（2回目です。）分かったような、分からないような。でも、多面的に捉えること、夢を実現するためにすべきことという視点はとても学べました。
- ・今までで一番すっきりとよく分かりました。根っこの部分から丁寧に話してくださり、とてもよかったです。次回も聞きたいです。
- ・なかなか表を完成するのは難しいと思った。しかし、児童の成長を願う気持ちは同じなので勉強して活用できるようになりたい。
- ・名前をなんとなくくらいしか知らなかったもので、具体的に作業できて、少し理解できました。指導計画を作る際の参考にしたいと思います。

### 子どもの性を考える

- ・公立小学校の養護教諭（新任）をしています。講師の先生方の具体的な事例で、とても分かりやすかったです。先日、保健室に5年生の女子が数人で「卵子と精子がなんでくっつくん？」と尋ねに来たそうです（私は不在でした）。疑問に感じることは良いことですし、説明するなら、丁寧にしたいなあと思いますが、今日の話聞いて、家庭の考え方にも配慮がいるんだなあと考えさせられました。
- ・保護者の方（思春期の子ども、成人の方）の話が聞け、これから先のことを考えて支援に生かしていきたいと思いました。ありがとうございました。

- ・子どものために、できること、しなければいけないことが、たくさんあることがわかりました。ありがとうございました。
- ・親ごさんの話が具体的ですし、やはり思いが伝わってきて、聞かせて頂いてとても良かったです。
- ・自分の体に関しての理解を小さい頃から、積み上げていく必要性を感じました。
- ・具体的なお話が聞けて良かったです。中村先生の講演は前にお聞きしたことがあり、今回も申し込みました。またお願いしたいです。役員の皆様、お世話になりました。
- ・3名の講師の方々、とてもわかりやすいお話を下さって、聞けて良かったです。内容は難しいこともたくさんあり、重たいですが、体験に基づいたヒント、見通しがいただけました。ありがとうございました。
- ・基本的生活習慣の大切さをあらためて考えさせられました。明日からの実践に生かしていかなければと思いました。
- ・とても参考になりました。ありがとうございました。「髪のおいをかぐ」というのは、自校にもあり、お答えが具体的でよく分かりました。やはり思春期の時に問題が起こっていることもわかり、どのような対応が必要なのか少し見えたように思いました。参加して良かったです。
- ・学校で直面している性の問題について、とてもよく似ていることや、悩んでいることについて、ずばりお話しただいて、ものすごく勉強になりました。次回の保護者会で今日勉強したことを伝えたいと思います。ありがとうございました。
- ・非常に有意義な時間でした。講師の方に実際に育てられてきた生のお話を聞かせていただいたからです。質問コーナーも参考になりました。
- ・親御さんの思い、経験等具体的な話を聞かせてもらい、なるほどと思うことが多々ありました。これからの取り組みに生かしていきたいです。

#### 青年期・成人期を見通して考える現在の課題 自閉症教育プロジェクト

- ・具体的な例と内容、それについての支援の方法で理解しやすかった。職場の具体的なケースを思い浮かべながら聴くことができた。
- ・自閉症の子どもへの対応や接し方について、あすからの実践に生かしていくことができる内容だった。
- ・大人に向けて何に取り組んでいけばよいのか、方向性の話は大変参考になった。
- ・トップダウン、LST の考え方がよくわかった。SST だけでなく、LST を段階的に指導に入れていく必要性についても分かった。
- ・LST での実践は、今担当している子どもたちの将来を考える上でとても参考になった。事例も「なるほど」と思えるものが多く、分かりやすかった。
- ・日常の取り組みを見直すよい機会になった。
- ・自分の実践について、間違いでなかったことと、同時に反省すべきことが分かった。
- ・現場に持ち帰って伝えていきたい。
- ・いかに子ども一人一人を理解して接していくことが大切か、接していく上で何が大切かを考えていくヒントが得られた。
- ・「できること」が少ない子どもに対して、どのように自尊心を育てていけるかをもっと知りたかった。
- ・親としてはもっと情報がほしい。

**B. 日程**

冬季研修会は、昨年度は冬休み、今年度は土曜日でしたが…

・ 土曜日・・・58名      冬休み・・・43名      平日午後・・・5名

- ・ 平日だとなかなか出張できないので、今回みたいなのがいいと思います。
- ・ 冬休みの方が出席しやすい。土曜日は、疲れがとれず休養にあてたい。
- ・ 家庭があるので、土曜日は出にくいです。
- ・ 土曜日は将来的に授業が入ってきそうなので、冬休みがよい。
- ・ 他県から参加させていただきありがとうございます。休日ですと参加できてありがたいと感じます。
- ・ 春休み（3月）でもよい。冬季とはいえないかもしれませんが。
- ・ （冬休みがよい）時間のある時に集中した内容および現代の課題を学びたい。
- ・ （違う時期がよい）夏休みに研修会があれば、2学期に発展して実践していける。
  - 「土曜日の方が良い」という意見の方が多かったです。しかし、昨年冬休みに参加され今年来られていない方に聞けば、異なる結果が出るかとも思います。

**C. 運営全体について**

- ・ たかつガーデンかアウィーナ大阪がよい。
- ・ 場所的にはいいところです。午後の開始時間をもう少し早くてもいいと思います。
- ・ 申し込み手続きが色々な方法で簡単にできて助かりました。
- ・ 参加申し込みは、ネットで楽で、会場の場所も駅近でよかった。
- ・ e-mail の申し込みが便利でよい。
- ・ 特別支援担当者より教えていただいて申し込みができましたが、声をかけてもらえなかったら参加できなかった。とてもいい内容なので、多くの教員に参加してもらえるといいのにとおもいます。
- ・ 「いい研修が多く、聴きたい講座を2日ぐらいに分けていただければありがたいなと思います。例えば、夏と冬に分けるとか。
- ・ 今回の枠の研修では、2つしか参加できない。他の研修にも参加してみたいと思った。
- ・ 支援学級の先生が教えてくださったので参加できました。支援の必要な子は通常学級にいるわけですから、皆に知らせていただいていた方がいいですか。
- ・ 昼休みあと15分短くてもよいと思う。
- ・ すべていいですが、早く着いた人をできたら会場に入れてもらえたらありがたいです。受付は、30分前でいいですので・・・
- ・ 研修会の案内が学校へメールのみだった。たまたま見てこの研修会を知ったが、確実な連絡方法はないものだろうか。
- ・ メールでの申し込みは便利だった。一方、メール等を使い慣れていない人には難しかったのではないかな。
- ・ 午前、午後とも2時間の設定がよかった。3時間だと疲れてくるので。
- ・ 保護者の方で参加したがっている者もいる。保護者にも知らせてほしい

## D.これから、こんな講演・研修があれば...

- ・自閉症について詳しく聞きたい。実際、広汎性、アスペルガー、高機能自閉、自閉症スペクトラム等の境界線がわかりにくいので・・・。
- ・もっといろいろな種類のアセスメントのやり方を教えてもらいたいです。平日の教育センターの研修は授業のことや出張費のことでなかなか出にくいので、このような土曜日にやっていただけることはとても助かります。
- ・七野先生のお話が聞きたいです。京橋でゆうゆうを開いておられる大学の教授です。
- ・通常の学級での集団作りにおいて、特性理解が周囲の児童、保護者に求めにくく、対応に苦慮している担任が多い。実践を聞かせていただければありがたい。
- ・バーチャルAD/HDを来年も実施してほしい。AD/HDのすべてを理解できるわけではないし、より多くの現場の教員が体験して、理解を深めることが重要だと思うので。
- ・行動的に問題のある子どもへの具体的な支援をチームを組んでいかに進めていくかという参加型の研修（中学校の事例）。
- ・障がいそのものの理解の学習、発達検査の具体的な内容、自立活動、教材・教具  
今日の続きで、LSTの取り組みでの具体的な教材や教具、その実践のあり方について。
- ・特別支援教育での就労支援や生活支援について学びたい。高校や大学での特別支援教育のあり方なども。
- ・支援学級の担当者と支援児童の人数が、障害の程度を考慮しても学校により差があるので、知りたい（基準がはっきりしていない）。
- ・支援学級の担当者で若手が増えてきているようにも感じます。その先生方が基礎的な内容についての研修の機会を必要としているようにも思います。例えば、自閉症理解や自閉症教育の考え方、実践のあり方など、あるいは子どものアセスメントの視点やアセスメントの方法など、・・・。自閉症については、情報処理のあり方に特別な側面があるので、自閉症という古くて新しいものについての理解の側面での研修のあり方が必要かも知れません。
- ・小中と支援学校とのコラボレーションを絶えず意識した中で、①インクルーシブ体育の実践、②ICT導入前後の言語力育成の比較実践 等のテーマがあれば、興味深いと感じておりました。
- ・上野一彦先生のLDについての講演                      ・中邑賢龍先生のAADについての講演
- ・支援学級と通常学級の連携について                      ・翔和学園の教育活動、knowhowの紹介
- ・実際に即した内容(親の会と連携した内容で)                      ・WISC-IIIの理解
- ・特別支援教育の現在の課題                      ・自閉症教育について
- ・通常クラスでの具体的支援と運営について                      ・AAC関係
- ・府教育センターの伊丹先生の話                      ・愛媛大学の花隈先生の話
- ・本日の松本先生の話の続き                      ・教具の選び方の工夫